

[アルティメットキャスティングブレーキ]

## ULTIMATECASTING BRAKE

by MAGFORCE

不変の優位性。可変の個性

電磁誘導ブレーキ [MAGFORCE] と、スプールの回転速度等に応じて磁界に出入りする [可変インダクトローター] による完全「非接触式」のブレーキシステム。摩擦に頼らない非接触式だからこそ、水没や雨、飛沫、湿度といった使用環境の影響を受けにくく、パーツが消耗しないため性能が半永久的に持続。またMAGFORCEの効きが安定しているからこそ、軽量級ルアーへの適性や汎用性、2段可変による超過投性といった個性を可変インダクトローターに付与できる。

[アルティメットキャスティングラインガイド]

## ULTIMATECASTING LINE GUIDE

巻きと飛びの効果を一つにまとめた無二の機構TWS

ラインの緻密な巻き取りと、キャスト時における無抵抗範囲の拡張を一挙に叶える [TWS]。この機構によって放出されるラインの流れがスムーズになり、DAIWAベイトリールのロングキャスト性能は飛躍的に向上。またTWSは、レベルウィンドで起きていた「ラインの玉突き事故」、バックラッシュの防止にも効果を発揮。24 STEEZ SV TWにはライン放出抵抗をさらに減らしたターボTWSを搭載。スプールの高回転化が進む近年、TWSの重要性はますます高まっている。

## 4つの革新性が共鳴する投げの設計思想

[アルティメットキャスティングデザイン]

## ULTIMATECASTING DESIGN

by MAGFORCE

トラブルレスで、もっと遠くへ、より正確に。

1982年、DAIWAが世界に先駆けて電磁誘導ブレーキ [MAGFORCE®] を開発してから四十余年の歳月が流れた。この間DAIWAは片時も歩みを止めることなく、メインブレーキであるMAGFORCEの性能を磨き続け、ついにサブ(メカニカル)ブレーキを不要とすることでアルティメットキャスティングデザインの境地に辿り着いた。汎用性や遠投性、フィネス性能など、アングラーが求めるブレーキ特性を決定づける [可変インダクトローター]。飛距離とトラブルレス性能を劇的に向上させる [TWS]。低慣性スプールに不可欠の高強度特殊アルミ合金、その最上グレードである [G1ジュラルミン]。そして、アングラーをメカニカルブレーキ設定のわずらわしさや接触抵抗から解放する [ZEROアジャスト]。これらDAIWAの革新的技術を結集した投げの設計思想が、もっと遠くへ、より正確にルアーを運ぶ。

※当時の呼び名は [MAGSERVO]

[アルティメットキャスティングスプール]

## ULTIMATECASTING SPOOL

特殊素材と加工技術による高強度・低慣性スプール

ベイトリールのスプールにはアルミ合金が使われることが多く、その最高強度・最上グレードに位置付けられるのが、DAIWAが採用するG1ジュラルミン。この素材は、マグネシウム比2倍、超々ジュラルミン比1.3倍の高強度で、スプールに用いて強度を基準に設計すると、圧倒的軽量性を実現できる。ただしG1ジュラルミンを高精度に仕上げるには高い加工技術が必要。素材がもつ剛性を軽さとして活かすためにも極薄に設計・加工できることが前提だ。

[アルティメットキャスティングゼロアジャスト]

## ULTIMATECASTING ZERO ADJUST

サブブレーキ併用の手間と設定の曖昧さをZEROに

メインブレーキ (MAGFORCE) を極めたDAIWAにサブ(メカニカル)ブレーキは不要。[ZEROアジャスト] 思想から生まれたゼロアジャスターによって、いったん「スプールガタZERO設定」を終えたら、あとはマグダイヤル調節だけであらゆる状況に対応可能。さらに、いよいよ「サブ(メカニカル)ブレーキ機構そのものを排除」した24 STEEZ SV TWのZERO設定はもはや狂いようがない。効きが不安定なサブ(メカニカル)ブレーキをサブとして併用せざるを得ない、設定の曖昧さと手間もZEROだ。

イメージしたキャスト軌道を、現実に。

DAIWAが長年追い求めてきたアルティメットキャスティングデザインを実現するには、キャストビリティに大きく影響する4つの要素を揃え、それぞれの性能を極限まで高める必要があった。それらの要素とは、「DAIWA発の世界初」である電磁誘導ブレーキ [MAGFORCE+可変インダクトローター] を始め、[TWS] [G1ジュラルミン製スプール] [ZEROアジャスト] と、すべてがDAIWA独自の技術とコンセプトだ。DAIWAが積み重ねてきた技術革新も、ついに実現したアルティメットキャスティングデザインとその今後の進化も、すべてはアングラーがイメージしたキャスト軌道を現実のものとするために。